

教職員用

	診 断 内 容	A よくあて はまる	B ややあて はまる	C あまりあ てはまら ない	D まったく あてはま らない	R7 肯定率	R6 肯定率	
1	学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。	57.1%	38.1%	4.8%	0.0%	95.2%	100.0%	↘
2	教育課程の編成に当たって、学習指導要領の趣旨が生かされている。	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%	100.0%	95.7%	↗
3	教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。	33.3%	52.4%	14.3%	0.0%	85.7%	87.0%	↘
4	学校は、教育活動全般について、生徒や保護者の願いに応えている。	52.4%	38.1%	9.5%	0.0%	90.5%	95.7%	↘
5	各教科において、教材の精選・工夫を行っている。	57.1%	38.1%	4.8%	0.0%	95.2%	91.3%	↗
6	この学校では、少人数指導を取り入れるなど、指導方法の工夫・改善に努めている。	61.9%	33.3%	4.8%	0.0%	95.2%	95.7%	↘
7	思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。	38.1%	42.9%	19.0%	0.0%	81.0%	69.6%	↗
8	評価の在り方について、話し合う機会がある。	38.1%	42.9%	19.0%	0.0%	81.0%	82.6%	↘
9	この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。	42.9%	47.6%	9.5%	0.0%	90.5%	91.3%	↘
10	生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。	52.4%	28.6%	19.0%	0.0%	81.0%	87.0%	↘
11	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。	61.9%	28.6%	9.5%	0.0%	90.5%	87.0%	↗
12	いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。	71.4%	19.0%	9.5%	0.0%	90.5%	82.6%	↗
13	この学校では、生徒指導において、家庭との連携ができている。	28.6%	66.7%	4.8%	0.0%	95.2%	87.0%	↗
14	この学校では、生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている。	42.9%	38.1%	19.0%	0.0%	81.0%	82.6%	↘
15	生徒一人ひとりが、興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。	52.4%	38.1%	9.5%	0.0%	90.5%	95.7%	↘
16	学校行事が、生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	→
17	教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている。	28.6%	28.6%	38.1%	4.8%	57.1%	39.1%	↗
18	この職場においては、教職員の服務規律への自覚が高い。	38.1%	38.1%	19.0%	4.8%	76.2%	82.6%	↘
19	コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている。	57.1%	38.1%	4.8%	0.0%	95.2%	91.3%	↗
20	学校内で他の教員の授業を見学する機会がある。	47.6%	47.6%	0.0%	4.8%	95.2%	91.3%	↗
21	情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。	42.9%	52.4%	4.8%	0.0%	95.2%	82.6%	↗
22	学校運営が組織的に運営されている。	28.6%	42.9%	23.8%	4.8%	71.4%	82.6%	↘
23	教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。	14.3%	57.1%	19.0%	9.5%	71.4%	73.9%	↘
24	経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。	19.0%	61.9%	19.0%	0.0%	81.0%	60.9%	↗
25	校内研修について、計画的に研修が実施されている。	38.1%	52.4%	9.5%	0.0%	90.5%	87.0%	↗
26	教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	33.3%	47.6%	19.0%	0.0%	81.0%	78.3%	↗
27	校内研修は教育実践に役立つような内容となっている。	38.1%	52.4%	4.8%	4.8%	90.5%	87.0%	↗

質問7、質問17、質問21、質問24において前年度より大きく肯定率が上昇している。質問7においては新カリキュラムが施工され4年がたち、思考力を重視した問題解決学習が全学年で実施されたことが大きいと考えられる。質問17においてはボランティア活動を前面に出し実施してきたことで活動が教員間に浸透してきており肯定率が大幅に上昇しているが、次年度さらに引き上げたいと画策している。質問21においてもブログによる情報発信に力を入れ学校経営計画でも更新回数目標を毎年引き上げ、教員全体で取り組んでいることが功を奏していると思われる。質問24においては新卒講師が教科主任を任せられ（当該教科に1人配置のため）、採用2年目の教諭が新担任となるなど周囲のサポートが例年より手厚くなったこと、将来計画委員会（学校の将来を見据え中期的改革のたたき台を考える委員会）の委員を中堅教員に変更したことなどが要因と考えられる。

質問22の肯定率が大きく低下した原因としては、教員定数減等により教員1人当たりの業務量が飛躍的に増えたこと、仕事量に偏りが発生したことが原因と思われる。